

4 教生推第 46 号
令和 5 年 3 月 15 日

各都道府県教育委員会専修学校各種学校主管課長
各都道府県専修学校各種学校主管課長
専修学校を置く国立大学法人担当課長 殿
厚生労働省医政局医療経営支援課長
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課長

文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課長

神 山 弘

(公 印 省 略)

爆発物の原料となり得る化学物質等の管理強化に関する警察庁
からの依頼について（通知）

G7 広島サミット及び関係閣僚会合並びにこれらの関係行事等に向け、テロ等の違法行為の未然防止に万全を期すため、学校等に保管されている爆発物の原料となり得る化学物質等の管理強化について、別添（「爆発物の原料となり得る化学物質の管理強化について」令和 5 年 3 月 2 日付け警察庁丁備企発第 44 号）のとおり、警察庁より依頼されております。

昨年 7 月 8 日、安倍晋三元内閣総理大臣が街頭演説中に銃撃されるという重大事件が発生し、使用された爆発物については、インターネットを通じて調達した化学物質で製造された旨が報じられたほか、近時、市販の化学物質から爆発物を製造する事案が複数発生しております。過去には、学校に保管されている化学物質を窃取し、爆発物製造を企てる事案も発生しており、今後も、爆発物を使用したテロ等違法行為が行われることが強く危惧されます。

このため警察では、爆発物の原料となり得る化学物質 11 品目（硫酸、塩酸、過酸化水素、硝酸、塩素酸カリウム、塩素酸ナトリウム、尿素、硝酸アンモニウム、アセトン、ヘキサミン及び硝酸カリウム）への対策を推進しており、これらの化学物質の学校等における管理強化を一層推進することが求められています。

つきましては、今回の依頼の趣旨を踏まえ、以下の点に留意し、各都道府県及び各都道府県教育委員会専修学校各種学校主管課にあつては、所管又は所轄の専修学校各種学校に対して、国立大学法人の担当課にあつては、その管下の専修学校に対して、厚生労働省の専修学校主管課にあつては、所管の専修学校に対して、学校に保管されている上記 11 品目を含む毒物、劇物等の化学物質に関し、改めて保管・管理の徹底、管理体制の点検・強化等の周知徹底を図るとともに、その取扱いに遺漏のないようお願いいたします。

1. 定期的な数量の確認及び簿冊等による確実な管理を行うこと

2. 施錠設備のある保管場所への保管及び確実な施錠を行うこと
3. 生徒のみでの保管場所への立入り及び取扱いを禁止すること
4. 取扱いに係る化学物質等が盗難に遭い、又は紛失したときは、直ちに警察に届け出ること
5. 生徒に対し、化学物質等の誤った取扱いによる危険性等について、指導を行うこと

(参考①) 厚生労働省関連URL (毒物劇物の安全対策)

<http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/doku/dokuindex.html>

(参考②) これまでに発生した学校等に保管されている毒物、劇物等の化学物質を窃取された事案等の報道等

○2016年1月 宮崎県 高校の化学準備室の硫酸等が窃盗された事案

宮崎県内の高校において、1階の窓ガラスが割られていることを職員が発見し、警察へ通報。化学準備室のドアが破壊され、室内から硫酸の入った500ミリリットルの瓶3本や、硝酸の入った500ミリリットルの瓶3本等が盗まれていた。

○2018年1月 静岡県 中学生が水銀を学校から持ち出し飛散させた事案

中学校生徒が理科の実験で使う水銀約500グラム(40CC)を持ち帰り、自宅敷地内に誤って落とし、飛散。水銀は通常、薬品庫に施錠して保管され、記録簿にその使用日を記入するが、教諭は記入を怠っていた。

○2018年8月 愛知県 高い殺傷能力を持つ爆発物を製造した事案

過酸化アセトン(TATP)や四硝酸エリスリトール(ETN)を製造したとして、爆発物取締罰則違反等の容疑で大学生を逮捕。逮捕前に、同人は名古屋市内の公園で爆発実験を複数回行っていた。逮捕後、原料について「多くは、通っていた高校から取ってきた」と供述。

<本件担当>

文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課
専修学校教育振興室専修学校第一係

直通：03-6734-2915

警察庁丁備企発第44号
令和5年3月2日

文部科学省大臣官房総務課長 殿

警察庁警備局警備企画課長



爆発物の原料となり得る化学物質の管理強化について

警察では、G7広島サミット及び関係閣僚会合並びにこれらの関係行事等に向け、テロ等違法行為の未然防止に万全を期すため、各種対策を推進しているところである。しかしながら、昨年7月8日、安倍晋三元内閣総理大臣が街頭演説中に銃撃されるという重大事件が発生し、使用された爆発物については、インターネットを通じて調達した化学物質で製造された旨が報じられたほか、近時、市販の化学物質から爆発物を製造する事案が複数発生している。過去には、学校に保管されている化学物質を窃取し、爆発物製造を企てる事案も発生しており、今後も、爆発物を使用したテロ等違法行為が行われることが強く危惧される。

このため警察では、爆発物の原料となり得る化学物質11品目（硫酸、塩酸、過酸化水素、硝酸、塩素酸カリウム、塩素酸ナトリウム、尿素、硝酸アンモニウム、アセトン、ヘキサミン及び硝酸カリウム）への対策を推進しており、これらの化学物質を取り扱う販売事業者等に対して継続的に個別訪問を行い、盗難防止等のための保管管理の徹底、盗難・紛失発生時の通報、販売時における本人確認の徹底、不審な購入者に関する情報の通報等を依頼しているところである。

貴省におかれても、当庁からの要請（平成30年12月13日付け警察庁丁備企発第247号「爆発物の原料となり得る化学物質等の管理強化について」）に基づき、管轄下の学校等に対して、管理の徹底等に係る指導を行っていただいているところ、これまでも、爆発物の製造に学校管理の化学物質を使用したとみられるケースが発生したことを踏まえ、学校等で使用する化学物質のうち、特に上記11品目の管理強化として、

- 定期的な数量の確認と簿冊等による確実な管理を行うこと
- 施錠設備のある保管場所への保管と確実な施錠を行うこと
- 学生等のみでの保管場所への立入り及び取扱いを禁止すること

について改めて指導するとともに、その取扱いに係る化学物質が盗難に遭い、又は紛失したときは、直ちに、警察へ届け出るよう周知徹底することとされたい。

また、学生等に対する、化学物質の誤った取扱いによる危険性等についての指導・教養の推進も含め、引き続き、同種事案の再発防止に向け、管轄下の学校等に対する指導を徹底することとされたい。